

株式会社博報堂

鈴木 淳

委嘱業務完了および実績報告書

資源エネルギー庁「令和 7 年度エネルギー需給構造高度化対策調査等事業（エネルギー教育推進事業）地域におけるエネルギー教育実践事業」における令和 7 年 6 月 25 日に委嘱された内容について、委嘱業務の完了と実績を以下の通りご報告いたします。

・委嘱概要

特別委員氏名	鈴木 淳
委嘱期間	令和 8 年 6 月 25 日～令和 8 年 2 月 17 日
実践タイトル	未来に向けて自分をみがく 菅牟田っ子(事業)

・実施事項

<ul style="list-style-type: none">・太陽光発電によるメダカ水槽エアポンプ設置、水力発電学校池の整備（総合）・ソーラークッカーによる理科学習での実験と冬の花づくりへの太陽熱活用・手回し発電機や水力発電モデルコーナーを設置し、常時体験活動を行える環境づくり・地域の水資源や昔からの水力利用について学ぶ講演会の実施 3 回（社会と総合）・小水力発電所の見学（総合）・活動の様子を冊子にまとめ、曾於市教育委員会・保護者・地域に成果を報告。

・成果

<ul style="list-style-type: none">・子どもたちは水力発電実験などを通して、豊かな自然が自足可能な社会の実現に向けて価値あるものになると再認識できた。また、他の発電方法についても考えるなど思考を深めた。・学校近くの水車「サコン太郎」を活用し昔から水の流れを効率よく運動エネルギーに変換し、生活に利用されていたことが実感できた。社会科では、電気がどのように送られてくるかを考えた。その中で、様々な発電の利点や課題、電気から出るゴミについてもボードゲームやアプリを活用して考える活動を実施できた。・菅牟田地区コミュニティ協議会の方々に来校していただき、「菅牟田がどのような」に豊かな水を利用してきたかをこれまでの歴史や水道の仕組みも含め、わかりやすくお話ししていただけた。・菅牟田の隣、笠木地区にある小水力発電所を見学し、実際に水を使って発電している様子を見学できた。自然と企業、地域が一体となり、協力しながら発電していることに- 学習したことを生かし、資源エネルギー庁の「かべ新聞コンクール」に 4～6 年生全員で取り組んだ。身近な電気を考えることで菅牟田の資源の豊かさや未来まで考えることができた。
--

・ 今後への課題

- ・ 今年度2月25日に実施予定の曾於市選挙管理委員会との連携事業「模擬選挙」をエネルギー教育と連携し、エネルギーミックスや地球温暖化対策等を争点とした模擬選挙を実施する。(添付資料参照)今年度は、指導者側から極端な候補者を提示し、葛藤する状況を作り、意見交流を通じた低学年から主権者意識を培う実践を重ねていく計画であるが、令和8年度以降は2年計画で高学年の児童が学んだことを生かして、世界、日本、または菅牟田の未来に向けての主張を持たせ、候補者として立候補し、その主張に対して選挙で選ぶ事業を展開したいと考えている。主張を総括した形で「エネルギー壁新聞」づくりも並行して行う。
- ・ 菅牟田コミュニティ協議会の水車「サコン太郎」や用水路を利用した地域も巻き込んだ水力発電活動を展開したい。水力発電で得たエネルギーで蓄電し、街灯やイルミネーション、または無料携帯充電ステーションなど地域資源の価値に誇りをもてる活動を学校と地域が一体となった活動として展開していきたい。
- ・ 持続可能な社会の実現のためにはエネルギー政策の大前提S+3Eは欠かせないのでそのためのベストミックスを考える活動を展開していく。そのためには放射線教育や高レベル放射性廃棄物の問題等にも子どもたちの主体的な活動を通して取り組んでいきたい。